

第1回津山市水道事業経営審議会 議事要旨

【開催日時】 令和5年5月31日（水）13:30～15:30

【開催場所】 津山市役所2階第1委員会室

【議 題】

(1) 委員長・副委員長選出

委員から事務局案を求める意見あり。

事務局から委員長に平野正樹委員を提案、

委員互選により委員長に平野正樹委員を選出

(2) 水道の歴史と津山市水道事業

事務局から説明

【意見・質疑等（要旨）】

(委 員)

生活用水の確保は重要である一方で、(令和8年度以降) 経営を続ければ続けるほど赤字が増えるということは理解したが、料金の適正水準について、今の経済状況が悪いなかで、市民の皆さんに理解いけだけのかどうか。

一方で、水道を供給するためには更新工事も必要であるという観点も承知している。

(委 員)

採算が厳しいなかで、今までどおりの更新を実施するのは、どうなのか。

更新・事業計画の実施については、優先順位を決めて実施し、料金改定検証し、判断するという理解でよいか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員長)

料金の適正水準だけでなく、当然経営の効率化も合わせて考える必要がある。

今後の審議会ではこのあたりも考えながら進めていきたい。

(委 員)

水道料金の収納率は。

(事務局)

99%を超える料金収納率を確保している。残っている分も回収していきたいと考えている。

(委員)

電気代の高騰は、水道事業者だけではなく民間事業者や各家庭でも大変悩ましい状況にある。市民や企業に理解してもらおう方向性をだすことが大事である。

(委員長)

今もコストが上がっていることを後日事務局から説明し、これも判断材料としていただければと思う。

(委員)

生活の苦しい方からの相談なども出てくるかと思う。

業種によっては大変なところもあるかと思う。

(委員)

令和8年度から収益的収支がマイナスとなることは、事業として成り立っていないということかと思う。

物価の高騰があるなか、市民の理解を得られるような形で説明が必要であり、経費の削減も行いながら収益的収支がマイナスとならないようにする必要がある。

(委員)

現在の水道の状況で説明があったとおり、有収水量は今後10年、20年と経過するにしたがい減少し、長期的にはピーク時の半分以下となる。

ここ2年で急激に状況が悪化していることとは別に、長期的な視野で水道事業を今後どうしていくか見ていく必要がある。

元々水道事業は収益性が高く、独立採算制で経営しており、税金を投入しない経営方式となっている。今後もこの方式でどう経営を続けていくか、皆さんで知恵を出し合って考えてく必要がある。

(委員長)

中長期的な視点から考えをまとめ、短期でも対応できることが大事かと思う。

水道事業に対する理解が深まるよう、事務局には資料を用意していただき、易しく解説していただきたい。

この審議会は、委員の皆さんの水道事業への理解を深めると同時に、値上げだけではなく効率化なども含めて、検討する場であり、仮に値上げもやむを得ないという結論が出たとしても、その後議会などを通すことになる。

そのためにも、この審議会ですっきりと議論していきたい。